

第1学年・年次の進路講演会で、元サッカー日本代表の前園真聖様が講演してくださいました。

令和6年1月15日（月）6時間目に、第1学年・年次の第2回進路講演会を実施しました。株式会社ライセンスアカデミーから、元サッカー日本代表の前園真聖様を講師として派遣していただきました。

前園様は、「自分のキャリアを形成していく方法」を演題にして、約40分間、ご自身の経験をもとにして、生徒たちへメッセージを伝えていただきました。生徒たちは、前園様の話を熱心に聞いていました。

生徒たちには、希望する進路の実現に向けて、一歩踏み出してくれることを期待しています。



1学年・年次 約240名



講演者 前園 真聖 様



生徒謝辞、花束贈呈

【講演の主な内容】

※高校生へのメッセージ

- ・サッカーを楽しくやって全国大会に出たいと思って、高校は、鹿児島県の部員約300名の強豪校に入学した。
- ・監督の自宅に3年間下宿して、休みは年に1日、サッカー漬けで、上下関係も厳しく、つらい時の方が多かった。
- ・サッカー部をやめた同級生もいたが、私はつらい時に、仲間が横にいて、同じ思いを共有できたことで頑張れた。
- ・高校生のみなさんには、つらい時に思いを共有できる友達、手を差し伸べてくれる友達をつくってもらいたい。
- ・小学生の頃、Jリーグは発足前で、テレビでサッカーの試合を見ていて、海外に行ってプロのサッカー選手になりたいと思っていた。とにかく、サッカーが楽しくて、もっとうまくなりたいと夢中になって練習した。
- ・高校生のみなさんには、楽しくて夢中になれるものを見つけてもらいたい。
- ・プロ1年目は試合に出られなかった。「何かを変えない」と思って2年目にアルゼンチンのチームに4カ月留学した。
- ・現地の選手は、サッカーの給料が月5万円で、夜遅くまでアルバイトをして、朝早くから一生懸命に練習していた。
- ・日本語が通じない、スペイン語は話せない中、恥ずかしさはあったがスペイン語の辞書をもって練習場に行った。
- ・現地の選手は、初めは笑ってバカにしていたが、やがて人が集まってきて食事にも誘ってくれるようになった。
- ・一生懸命さを理解してくれて、試合でパスを回してくれるようになった。それまでは、試合でも無視されていた。
- ・「辞書をもって練習に行った」この一歩を踏み出したことで、自分の周りの人たちが変わっていった。
- ・高校生のみなさんには、何かを変えたいと思ったら、勇気をもって一歩踏み出してもらいたい。
- ・帰国後、補欠で、スタンドで試合を見ている時、プロ選手として本気でサッカーに打ち込んでいたのか自問した。
- ・試合に出るためにはどうしたらよいのか考えて、腐らずに練習に取り組もうと気持ちを切り替えた。
- ・試合に出られない時、「何で俺を使わないんだ」「監督は俺のことを見ていない」などと愚痴や悪口を言いたくなる。その時は、気持ちが少し晴れるが、本質は何も変わらない、何も変わっていない。
- ・自分の思い通りにならない時、誰かのせいにしていても、誰も自分を信頼してくれない。言い訳を外に向けない。ベクトルを自分に向けて、自分がどうすればよいのか考えて行動した方がよい。
- ・2006年に引退した。選手よりも引退後の人生の方が長い。過去にお酒で失敗した時、自分に関係する多くの人に迷惑をかけてしまった。テレビ番組が放送中止になり、出演しているタレント、スタッフなどに多大な迷惑をかけてしまった。仕事なくなり、人が離れていった。40歳になって、人とのつながりの大切さに気がついた。
- ・そんな時に、サッカーの先輩や後輩が助けてくれた。自分が大変な時に手を差し伸べてくれた人がいた。10名もいなかったが、その人たちに感謝して共に歩んでいこうと思った。
- ・高校3年間で、自分が困った時に助けてくれる、困った時に助けようと思える本当の友達を見つけてほしい。この時間を大切に楽しんでほしい。夢や目標はなくても自分が好きなこと、夢中になれることを見つけてほしい。
- ・私はドリブルが得意だったが、試合でドリブル突破を失敗すると途中交代を命ぜられていた。その理由がわからなかった。ある時、監督から「ドリブルを失敗したら下を向いている、パスで逃げる。そうではなくて何回でも挑戦なさい」と言われた。
- ・挑戦してうまくいかないことはミスではない。すべてが自分の経験になる。踏み出さないことは失敗になる。うまくいかないことはたいしたことではない。一歩進まない方が失敗である。
- ・いろいろなことに興味をもって、一歩進んでもらいたい。私の経験が、みなさんの何かのきっかけに少しでもなればよいと思う。みなさんは、何でも挑戦できる。未来がある。周りの人に感謝の気持ちをもって過ごしてください。